

4 社連携、足整療法の靴補正具製作システム

「足」からの未病予防

足道など

足裏から健康につなげる「足整療法」で第一人者とされる渡辺英一・用田接骨院院長の研究成果を具現化したシステムを、足道（藤沢市藤沢、☎0466・65・0053）が中心となり、異業種4社で開発した。肝臓（たこ）・まめ、膝・腰痛、肩こりなどで悩む人たちの足裏をスキャン、その特性を分析する“あしあとカルテ”により、本人に一番フィットする靴補正具を半自動で成形する。「未病予防につながります」と足道の渡辺幸枝代表。全国の接骨院や整形外科などに採用を呼びかけていく。

足道のほか、OAシステムシャープ（香川県高松市）と産業デザインのホロノクリエイト（横浜市港北区新横浜）、ロボット開発の小川優機製作所（同市保土ヶ谷区坂本町）が連携した。

足整板システム「Footfix（フットフィックス）」と名付けた。人間の全体重を支える足裏のスキャンデータから、「足裏のどの部分に体重がかかり負担になっているか」などを割り出し、渡辺院長の約30年にわたる研究・治療データベースと照合。そこから改善につながる「治療用靴補正具（足整板）」を半自動プレス装置で製作する。

足整板には「重いものを載せてもつぶれにくい」（渡辺代表）とする特殊材料を使用。いつも履いている靴に貼ることで、偏っていた足裏バランスを整え、歩き方を改善。足や腰への負担軽減につながる。

渡辺院長は「視力の弱さを眼鏡でカバーするように「足整板」を使うことで、スポーツ選手や

一般の人のコンディション調整や未病予防などの健康づくりに役立ててほしいです」と話している。

今後は一般社団法人・日本フットヘルス協会を通じ、治療家にも働きかけ、3年間で同システムを使いこなせる人材を育成。全国500カ所以上に普及させる。海外展開も視野に入れているという。



3月に取材した
注目の
新技術
新製品

支援センターとコラボ、3商品を販売

バッグ販売で盲導犬支援に寄付する ニックナック



ニックナック（川崎市麻生区王禅寺西、☎044・955・0079）は、一般社団法人・盲導犬総合支援センター（横浜市都筑区）とコラボした商品を発売した。マルチケース（1400円）とショルダートート（1680円）、おむつバッグ（1900円）の3種類。オリジナルキャラクター犬「ニーナ」入り。売り上げの一部を同センターに寄付する。持続可能な開発目標（SDGs）に対する取り組みの一環だ。國原沙央里社長は「今後も商品の種類を拡充していきたいです」と話している。

同社はママや子ども用品の製造卸売業。「POETIC（ポエティック）」ブランドを展開。ポーチやリュックサック、バッグなどに対し独自にデザインした約20種類の動物キャラを入れている。

それぞれのキャラには名前や性格、出身地、好きな食べ物などの“ストーリー”を設定。自分好みのキャラクターからグッズを選べるようにしている。「一つ一つのキャラクターに込めた愛情を感じてほしいです」と國原社長は言う。

こうした思いや手作り感などで、ディズニーなどのキャラをあしらう商品と一線を画し、固定ファンの獲得につなげている。現在、年間3000点ほどの商品を全国に出荷。ネットショップなどで販売されている。

一方、愛犬家向けに17種類の犬種のキャラクターを選び、それに名入れるオーダーメイドのグッズ製作サービスも人気という。



富士通特許活用、介護負担を軽減

置くだけで「見守り」可能に

コアフューテック

システム開発のコアフューテック（川崎市中原区新丸子東、☎044・430・5501）は、車載用の高性能赤外線カメラを1台置くだけで、寝たきりの高齢者などをリアルタイムで見守れるシステムを開発した。富士通の開放特許「患者見守り技術」を活用した。内蔵センサーで利用者の頭の動きを追い、「起床」「離床」を感知。離れた人に知らせる。

「e伝之介くん」と名付けた。同社にとっては初めての自社製品という。センサー内蔵の本体（高性能カメラ）と送受信機、設定用リモコンで構成。ベッドと利用者の頭が認識できる場所に本体を設置すればすぐに使える。インターネットも不要だ。

リモコンでは「起床または離床」「起床のみ」「離床のみ」「起床・離床ともに報知しない」のパターンを設定。検知したら隣の部屋などにいる人に受信機で知らせる。ナースステーションとの連動もできる。

頭に包帯を巻いた状態でも自動検知。寝返りなどでの誤感知や、介護者や家族といった第三者の誤認識もほとんどないという。「普及することで、介護する人の負担を減らしたいです」と松本正己社長。

グループホームや小規模多機能型居宅介護施設・個人宅での利用を想定。夜間の負担を軽減する。

今後は、介護用品利用者向けにサービスを展開するレンタル業者などとの提携を進る考えだ。

価格は12万8000円から。初年度100台の販売を見込む。



同社は事務機器やBtoC製品に搭載されるソフトウェアの評価業務に特化した企業。受託型案件が主力事業のため、得意とするIT分野の知識を生かして「モノづくり」をすることが夢だったという。開放特許との出会いは2016年。約3年をかけて開発、発売にこぎ着けた。

計測範囲広く、725度まで

水銀不使用の船舶・工業用温度計開発

村山電機製作所

村山電機製作所（相模原市緑区橋本台、☎042・774・5696）は、船舶や工業用として水銀不使用の棒状温度計「YMT-700」と「YMT-700W」を発売した。「水銀に関する水俣条約」により、2020年末までに水銀製品が製造禁止となることを受け、その代替品として開発した。



船舶エンジン用などは、正常に稼働しているかを判断するために温度計を使用する。

同製品はマイナス5～プラス725度までの広い範囲での測定が可能。電子ペーパー表示で見やすいようにした。温度に応じて3段階のスケール表示（60度、300度、700度）が自動で切り替わるのも特徴だ。

ステンレス製のセンサー部分と本

体部の間に、熱伝導をシャットアウトするジルコニアを採用。どんな高温を測っても本体が影響を受けないように工夫、この構造で特許も取得した。

船舶用のほか、熱交換器やディーゼル発電機、さらには温泉の温度計測など幅広い用途も想定。価格は3万円から。年間1万2000台の販売を見込んでいる。村山潤社長は「将来は（同製品の）IoT化も考えています」と話している。

なお、同社は船舶用計測器などを製造販売する企業。漁船に搭載する海水温度計では国内シェア8割を誇っている。



社長さんが知っておきたい冠婚葬祭のマナー

が各所に及び、不特定多数の人が一カ所に集まることがためられる状況の中、お葬式にもその影響が出ています。

まず、葬儀の規模についてですが、多くの人が参列する一般葬は、個々の事情を考慮して縮小傾向にあります。

この時期のお葬式だからといって、中止や延期をするわけにもいきませんので、ご家族の方々は、訃報をお伝えすることによって不安を感じながらも、限られた人への家族葬や、直葬などをやむを得ず選んで、遺族や参列者への感染予防を重視している傾向が見受けられます。

そのような中、遠方のご親戚や友人の方々

現在、新型コロナウイルスによる影響



この時期のお葬式事情

も、参列することに不安を感じていらっしゃると思います。訃報が届いた方々は、どのようなお葬式の形でも、喪主の方の配慮や想いを汲み取っていただき、それぞれの想いでお見送りしましょう。

例えば、お葬式に参列できない時、供花や供物、弔電などを送ることもお悔やみの方法の一つです。

葬儀に参列する可能性のある方は、葬儀社や会場がどのような対応・対策をしているか事前にHPなどで確認しておきましょう。

今回の新型コロナウイルスによる影響は、思いがけず、親しい人とのお別れのあり方を改めて考える機会となっているように感じます。

（清水誠葬具店副社長・清水ふじ代）



不安でなく「希望」伝えたい

新型コロナウイルスの感染拡大の影響が地域経済にも広がっている。しかし、取材を通じて感じることは、その影響は業種によって異なるということだ。とりわけ製造業の場合、大手企業の研究開発に直結するビジネスに関わっていたり、医療・福祉関係のものづくりなどを手掛けていたりする企業では、あまり悪い話を聞かない。確かに「影響はこれから」と注視する経営者がほとんどだが、大手マスコミが報じるように、必ずしもお先真っ暗ではない気がする。

米リーマン・ショックのときもそうだったが、大手マスコミはよく不安をあおる。「他人の不幸は…」ではないが、何かという事件性ある報道をしたがる。テレビを見ていて

も、さっさと放送したばかりの暗いニュースを、番組名が変わるたびに報じる。これを一日中見ていたら、それこそ落ち込んでしまう。

今回、弊紙では新型コロナ感染拡大の影響が直撃する飲食店の取材に力を入れた。相次ぐ自粛ムードによる宴会キャンセルや外国人客の激減などで、非常に苦しい状況に立たされている店が少なくないからだ。普段は製造業を中心に回っているため、紙面内容的にお叱りを受けるかもしれない。

しかし、こういう時だからこそ、頑張る飲食業や小規模企業の姿を伝え、先行きに不安を抱える他業種の人に、少しでも前向きになってもらえればとの思いがある。不安ではなく「希望」を伝える紙面づくりを目指したい。（千葉 龍太）